

令和元年 7 月 19 日

学校関係者評価委員会 報告書

学校法人コア学園
秋田コア ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会において「平成 30 年度自己評価報告書」に対し、評価を行った。学校側からの説明および各委員からの意見を以下の報告書として取りまとめた。

学校関係者評価委員

<委員長>

- ・ 畠山 昭広 (秋田県医師会 事務局長)

<外部委員>

- ・ 菅原 恵悦 (一般社団法人 秋田県情報産業協会 理事・副会長、株式会社アキタシステムマネジメント 取締役)
- ・ 吉川 裕太 (吉川税理士事務所 所長)
- ・ 浅野 雅彦 (秋田商工会議所 事務局長)
- ・ 櫻庭 咲子 (秋田市立 秋田商業高等学校 教諭)
- ・ 柴田 良朗 (秋田ビューホテル 総支配人)

<学校側>

- ・ 小野 巧 (校長)
- ・ 小玉 拓子 (事務長)
- ・ 小杉 咲子 (学生部 部長)
- ・ 米谷 久志 (教務部 部長、高度職業実践科 主任)
- ・ 藤井 孝太郎 (教務部 副部長、情報システム科 主任)
- ・ 大石 卓司 (ビジネスキャリア科 主任)
- ・ 館岡 美紀 (医療事務科 主任)
- ・ 菊池 仁 (ホテル・ブライダル科 主任)

第1回 学校関係者評価委員会

日時：令和元年6月19日（水） 17：15～17：55

場所：学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 103・104教室

1. 学校からの配布資料

- (1) 専修学校における学校評価ガイドライン（一部抜粋）
- (2) 平成30年度自己評価報告書

2. 学校からの主な説明

(1) 学校評価について

① 学校評価の目的

学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善、および、学生・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくりの推進のため。

② 学校評価の定義

- ・自己評価：各学校の教職員が、当該学校の理念・目標に照らして自らの教育活動について行う評価
- ・学校関係者評価：学生・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う評価
- ・第三者評価：学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価

(2) 外部アンケートの実施について

学生を対象に、平成30年度の授業評価アンケートを実施し、自己評価の資料として活用した。

(3) 自己評価について

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「教育活動」「学生支援」の3つの視点に沿って評価項目を設定し、自己評価を行った。

3. 委員からの主なコメント

(1) 評価項目「退学者の低減が図られているか」

退学者は低減しているが、体調面や人間関係面での理由による退学者は依然としてい
るようなのでメンタルヘルス面での対応が必要である。

(2) 評価項目「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」

高等学校でもスクールカウンセラーを整備するのが難しく、専門学校ではなおさらで
あると思う。しかし、担任が学生の健康管理をすべて行うのは大変なので、環境整備がで
きれば少しでも悩みを解消できるのではないか。

(3) 評価項目「主体性を育む教育方法を確立し、高度な資格検定の取得率向上を図る」

高度な資格検定とその取得率の結果についての資料があるとよい。また、主体性を育む
教育方法を確立したことを示す客観的な評価基準を設けるべきである。

(4) 評価項目「学生募集活動は、適正に行われているか」

各学科で入学者の目標を設定し、達成したかを判断しているとのことであるが、全体的
に学生の入学者数が減っているのが大きな課題だと思われる。

高等学校も就職状況がとても良く、3月の卒業までに全員の就職先が決まる。就職希望
者は県内に残る傾向はあるが、進学希望者はほとんど県外である。

当校は県内就職率が非常に高いので、その点を武器に学生募集でアピールすると良い
と思う。

以上